

< 機械・農作業の共同化を目標としている事例 >

共同牧野で共同放牧による畜産農業継続

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	北海道足寄郡足寄町芽登 末広牧野組合			
協定面積 282ha	田	畑	草地 牧草(100%)	採草放牧地
交付金額 916万円	個人配分			0%
	共同取組活動 (100%)	エゾ鹿食害防止柵維持管理		5%
		農場環境整備・都市住民との交流		4%
		担い手育成・組織活動・その他		14%
		共同牧野施設保守管理		63%
	共同利用機械		14%	
協定参加者	農業者 4人、末広牧野組合(構成員5人)			

2. 取組に至る経緯

- ・末広地区は昭和21年戦後開拓入植に始まり、標高が高く寒冷地であったことから間もなく和牛・乳牛の畜産が導入され、立地条件を活用した共同放牧がはじまった。しかし規模拡大による設備投資、施設の近代化に乘れず離農があいつぎ、当初13戸の開拓者も現在営農しているのは4戸になっている。高齢化による後継者不足を克服し維持発展していくために、構成員の結束により、歴史的な共同牧野の与えられた条件を活用し、発想と実践を駆使して進めていく必要がある。

3. 取組の内容

- ・エゾ鹿を農地に入れないための鹿柵設置と補修管理
- ・78haの共同放牧地の牧場施設の共同保守管理、放牧畜の共同管理
- ・共同機械の導入と利用
- ・堆肥の運搬散布作業にコントラ利用
- ・春の放牧開始時に牧場祭りとして、都市住民との交流
- ・山菜などの地元食材を活用し開拓時からの料理を伝承
- ・農業実習研修生の受入れにより新規就農志向者を育成指導
- ・農業生産環境、生活環境の整備向上
- ・草地に完熟堆肥、土壌改良剤を投入し草地の生産性向上と維持管理



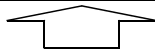
共同牧野追込み柵・給水場の設置作業



共同牧野隔障物の補修管理作業

[集落の将来像]

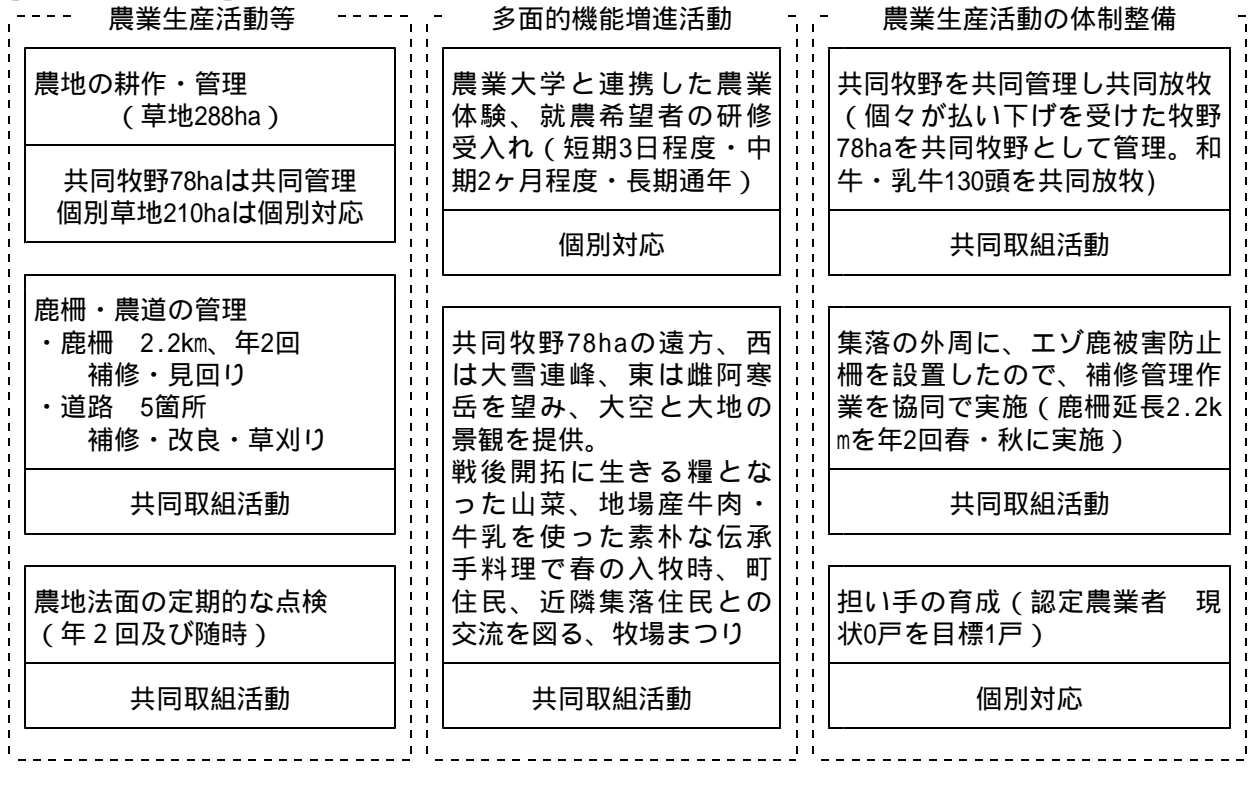
4戸のうち2戸に後継者がなく高齢化とともに労働力が不足し、牧野の共同放牧利用の継続が難しくなる。今から他の集落との協調を図り、肉牛ヘルパー事業への取組や新規就農者の受入れ実施により、共同放牧利用牧野事業を継続し、生産と生活に活力ある集落をめざしていく。



[将来像を実現するための活動目標]

農業経営者の高齢化が進行することから、対策として新規就農研修生の受入れと、農業後継者の育成指導を図り、共同放牧利用牧野事業を柱にした畜産経営を存続するために、集落活動を維持する。

[活 動 内 容]



集落外との連携

集落相互間の連携強化を図るため各集落、関係機関で構成される足寄町地域農業推進会議への参加。全集落にまたがって設置されているエゾ鹿被害防止柵に係る町鹿柵管理組合への加入、補修・維持管理等の連携。

4 . 取組による変化と今後の課題等

- ・ 条件不利な戦後開拓地への入植であり、本交付金を活用し営農の中心となる共同牧野を重点に条件整備や共同取組を行うなか、次の世代につながる営農基盤が強化され、先人達の開拓の苦勞に感謝し、集落の結束が強くなった。
- ・ 将来の後継者確保に向け取組の継続が必要。

[平成20年度までの主な成果]

都市住民との交流による地域の活性化(牧場まつり参加者の増 40名(H17)、60名(H18)、50名(H19))
 新規就農をめざす若者が、年間通して、研修を続けている (1名(H17)、1名(H18)、1名(H19))
 認定農業者の育成 (目標1名、3名(H19))